

支援の狙い—地域の現状—

被災地域の復興が進むにつれ、震災復興支援アドバイザー制度をはじめとするソフト支援施策の縮小が想定される。そこで、中小機構の支援ノウハウ(計画経営のススメ)を地域支援機関にも共有し、支援機関職員のスキル向上及び事業者の経営課題解決に向けたサポート力強化への寄与を目的とする。

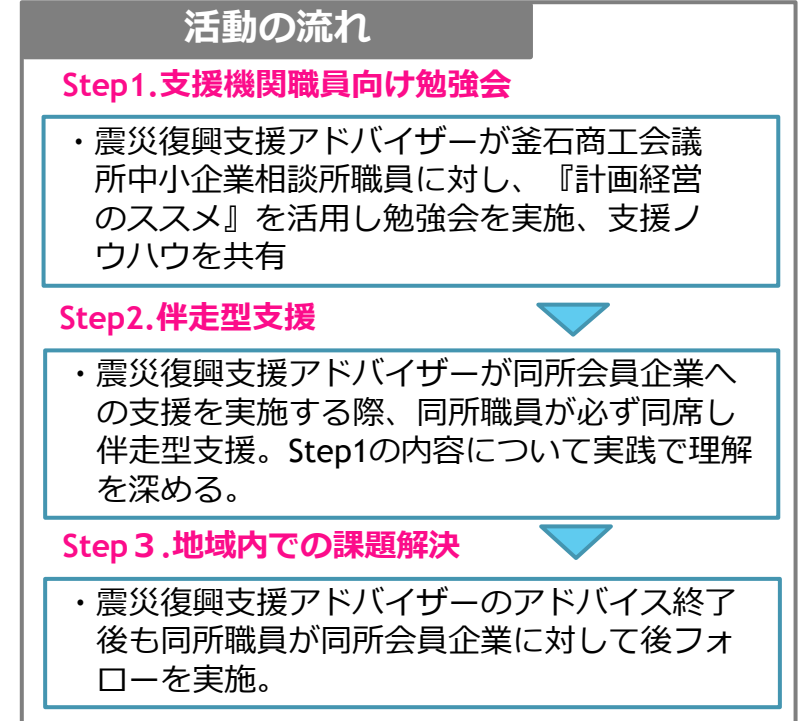
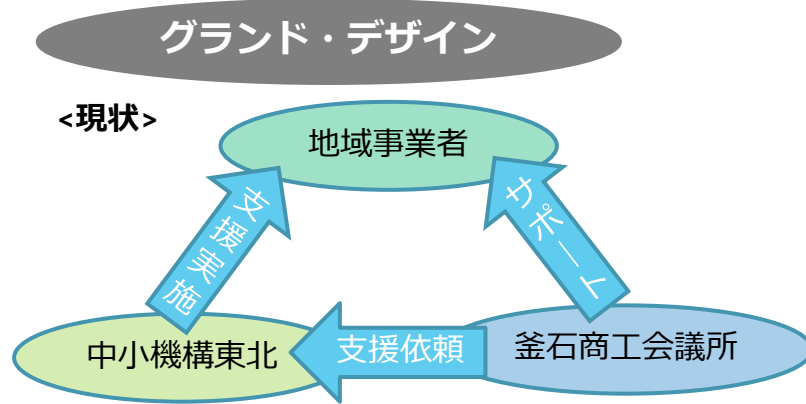


釜石商工会議所

設立	昭和16 (1941) 年12月26日
職員数	14名 (うち相談所職員7名)
会員数	941社

『計画経営のススメ』とは・・・
「計画を立て進捗管理し成果を出す経営」=“計画経営”の普及を目的として中小機構東北本部が作成した支援ツール

- 導入することによる事業者へのメリット
 - ・ 経営者の経営感覚にあった納得感のある事業計画が立てられるようになる。
 - ・ 理にかなった事業計画のため、社員や金融機関にも伝わりやすい事業計画となる。
 - ・ 顧客や製品の特徴、トレンドを見通した上で行動計画を立てるため、成果があがる。
 - ・ 儲けの基準が持てるため、仕事の優先順位、資源配分が行いやすくなる。
 - ・ 計画と実態のズレを月次で把握するため、すばやい対策を打つことが可能になる。



Step 1. 支援機関職員向け勉強会

- ・ 震災復興支援アドバイザーが釜石商工会議所中小企業相談所職員に対し、『計画経営のススメ』を活用し勉強会を実施、支援ノウハウを共有

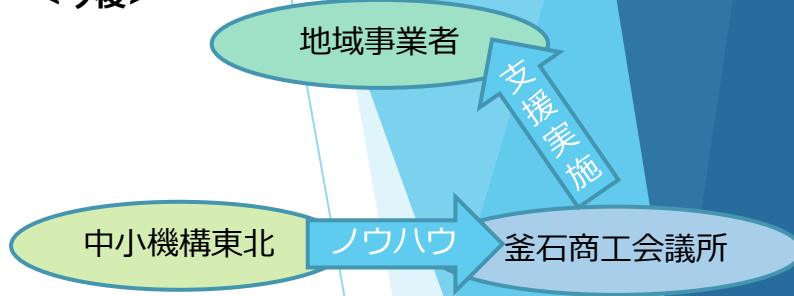
Step 2. 伴走型支援

- ・ 震災復興支援アドバイザーが同所会員企業への支援を実施する際、同所職員が必ず同席し伴走型支援。Step1の内容について実践で理解を深める。

Step 3. 地域内での課題解決

- ・ 震災復興支援アドバイザーのアドバイス終了後も同所職員が同所会員企業に対して後フォローを実施。

<今後>



支援成果

- Step 1. 支援機関職員向け勉強会
- ・ 震災復興支援アドバイザーによる具体的事例を用いた説明により、同会議所相談所職員が『計画経営のススメ』の仕組みを理解



- Step 2. / 3. 伴走型支援
- ・ 伴走型支援により、同所職員に支援ノウハウが定着、蓄積されたことにより、スキル向上に寄与

釜石商工会議所からのコメント
事業者の立場を理解し、地域密着の商工会議所ならではの支援を、職員個人に依存せず、チームで支援できるように取り組んでいます。